



## 「自然と福祉」環境の向上と地産地消

「写真の町」東川町長 松岡 市郎

皆さん、新年あけましておめでとございます。

昨年はいくつかの本州各県の市町村を見て刺激を受けましたが、改めて町の外から「写真の町」東川町を冷静に見ると、先人の皆さまが守り育ててきた東川町は最高だと感じます。

過疎でも過密でもなく、豊かな大地と緑の空間、おいしい水、うまい空気があります。お互いの顔が見え、挨拶を気軽に交わすことが出来、ゆつくりと時間が過ぎていく。そ

こには緊張感を持ち、やる気に溢れた人々が暮らしています。また、多くの人々が「写真の町」東川町に関心を寄せ、支援してくれていることは本当に誇りに感じます。

今年には写真の町を宣言して25年目の年を迎えます。写真文化と国際交流を通じて、世界に開かれ自然と文化が調和し、潤いと活力に満ちた町づくりをさらに進め、住民一人ひとりが「写真の町」を自慢と誇りにできるような町づくりになお一層尽力したいと考

えています。

水も空気も素晴らしい環境、そして生活空間の価値を未来永遠に持続させることが、私たちの責務であります。

特に、水と空気に共通しているのが「木」。「木を植えて育てる」ことは環境を守る上で大切なこと、植樹活動の展開を推進したいと計画しております。

今年度は「環境」「自然」「福祉(狭義の)」を重点とした施策、そして地産地消の展開を図り、より一層元気が

発揮できるようにしたいと考えています。

特に地産地消は、地球温暖化、地域の活力向上、国際貢献など、幅広い分野に貢献できるものです。町を挙げて取り組みたいと思っております。住民の皆さまのご参加をお願いします。

今年もカメラのレンズに向かって「笑顔でポーズのとれる」最良の年でありますことをご祈念申し上げます。



## 「原点回帰」の年に

東川町議会議長 浜辺 啓

二〇〇九年の新春を寿(こ)とほ)ぎ、全町の皆さまに「明けましておめでとございます」と申し上げます。

昨年は町始まって以来の大豊作で同慶に堪えないところでありましたが、国にあつては未曾有の混沌状態ではなかつたかと思われま

その起因が米国のサブプライムローンであり、連鎖で石油、原材料、金融と、外因でわが国が右往左往させられた状況は、数十年前に言われた「アメリカがくしゃみをすれ

ば日本が風邪を引く」といった現象とひとつも変わっていない。世界第二位の経済大国といわれながらまったく情けない限りであります。

マスコミによる「危機報道」に過剰反応し過ぎてはいないだろうか?情報過多による判断基準の混乱が起きてはいないだろうか?

先般東川賞審査委員を長く務めていただいた「筑紫哲也氏をしのぶ会」に出席してまいりましたが、その席で紹介された詞(ことば)に「ふる

里は変わらない方がいい」というのがありました。その詞に複雑な思いが駆け巡りました。

残さなければならぬもの、変わっていいもの、その判断を誤ってはいけないということだろうと思えます。

もうひとつ、筑紫氏が長くキャスターを務めた民放テレビ番組「ニュース23」の「多事争論」で使われた詞に「『論』も愉し」というのがありました。その詞を紹介した年頭のあいさつとさせていた

だきます。



第11回東川百景から「なかよし」=山室 薫さん撮影